

紅粉屋後家おくま

惣領甚六

さいのうそなたもそつてのとほり娘おかんは

昌■様へ百五十両のしたく金でやるはずゆゑ

手付の金うけ取てまもなく娘はアノ三吉と

かけおち手付の金はつかひこむおかんはゆくゑ

しれず昌■様へいひわけなきに娘のありか

たづねんとけふも一日あくせくと本所辺を

むぎ／＼ばんばの町をあとなし小梅

京座なりひらばしいしはら屋をあし引の

山の霜から今戸辺まつさきいなり大明神

むすめをたづねてわうじのいなりもとのおこりは

■いなりにのぼせてあつもりくまがへいなり

大明神りやくはあれどしれぬといふは

こういふもんだらうとく／＼のいなり大明神

ヲ、しんどやのふ

紅粉屋手代勘八

市川宗三郎

■きにすこしなりともお娘御のおゆくゑの

手がゞりでもしましたら○それはさぞ

■つかれでゞざりませう◎わたしもそのとほり

■むすめごのおゆくゑをさがしに出ましたがモシあり

■うはかういふ時がのんきゆゑまつ一ツ目のはしこゑで

■つとべんてん松井町それからあたけで二ツ玉ぼんと

- はせたときは町これらがえんのつなうちばとしりをからげて
- そつつきおもてやぐらやうらやぐらはらのとけいの日の仲町
- やこしらにゐようかと見てゆぐうらや三間ノ堂とほし矢
- ずはあたるはずさしづめ一の富が是ぐるりまはつて中きばへ
- るとむかふの川ぎしに紫にほふ藤の茶屋こゝで一ぱいひつ
- けてくれてとつかはかへり道モシおむすめこにあるならば此
- ／＼はらひが引つかみ雨の海とおもへ(ま)